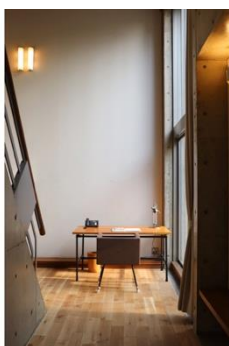


プレスリリース

パリ、2020年9月23日

2021年度、2022年度のヴィラ九条山レジデントに、
19名のアーティスト及びクリエイターが選ばれました。



© Villa Kujoyama



© Kenryou GU

ヴィラ九条山選考委員会は、310の応募書類を審査し、19名のアーティスト、クリエイターによる16のプロジェクトを選考しました。合格者は、2021年から2022年、2ヶ月から6ヶ月間滞在することになります。

各分野から選ばれた優秀な16のプロジェクトは、日本と深い関係をもつものや、現代的創造と工芸をつなげようとするヴィラ九条山の試みに沿うものです。

最終選考者：

- アレクサンドル・バルギウ – デザイン / グラフィックデザイン
- ボリス・ベルグマン – 文学
- バディ・ダルル – 造形芸術
- セバスチャン・デプラ – 工芸
- サンドリーヌ・エルベルグ – 写真
- リュディヴィーヌ・グラジ – 建築 / 景観設計
- ルイーズ・エルヴェ&クロヴィス・マイエ – 造形芸術

問い合わせ先

ロリアヌ・ジャゴ

広報担当

lauriane.jagault@institutfrancais.jp

T +81 (0) 75 752 7173

オリヴィエ・フロモン

PR・マーケティング担当官 / 統括
マネージャー

olivier.fromont@institutfrancais.jp

T. 03-5798-6008

ヴィラ九条山

〒607-8492 京都市

山科区日岡夷谷町 17-22

- クリコール・クシヨン – 音楽
- カンタン・クロン&オンブリンヌ・レイ – 映画 / ビデオアート
- 大島祐子 – 音楽
- ナターシャ・プトゥー&サシャ・ウルカドゥ – デザイン
- フィリップ・ルイ – 映画 / ビデオアート
- テディー・サンチェス – ファッション
- カリン・シュラッゲター – キュレーション
- ジュリー・ヴァシェ – デジタル・クリエーション
- セリーヌ・ライト – 工芸

選考委員会は、6月2日に集まり、本年度の結果発表を、日本の入国緩和情報を待つために、先延ばしにしないといけないという結論を出しました。今回の選考アーティストのヴィラ九条山滞在は、2020年3月以降滞在予定であった全てのアーティスト達の滞在を2021年に延期することを踏まえた上で、考えなければならなくなり、2021年度ヴィラ九条山レジデントの滞在は、2021年2022年にまたがることになりました。

最終選考委員会は、以下のメンバーで行われました。

ピエール・ピュレール、アンスティチュ・フランセ理事長

ピエール・コリオ、フランス大使館 文化参事官 / アンスティチュ・フランセ日本代表

コリーヌ・ミカエリ、ヨーロッパ・外務省芸術創造・文化創造産業課長

ロイック・ムーレ、文化省ヨーロッパ・国際行動担当官

エドウィージュ・グロニエ、ベタンクールシュエーラー財団文化後援部長
港千尋、多摩美術大学美術学部情報デザイン学科長/あいちトリエンナーレ2016 芸術監督

姫田美保子、パリ日本文化会館館長代理

エマ・ラヴィーン、パレ・ド・トーキョー館長

ダニエル・ジャンヌトー、ジュヌヴィリエ劇場ディレクター

問い合わせ先

ロリアンヌ・ジャゴー

広報担当

lauriane.jagault@institutfrancais.jp

T +81 (0) 75 752 7173

オリヴィエ・フロモン

PR・マーケティング担当官 / 統括マネージャー

olivier.fromont@institutfrancais.jp

T. 03-5798-6008

ヴィラ九条山

〒607-8492 京都市

山科区日岡夷谷町 17-22

ヴィラ九条山

建築家・加藤邦男氏の設計で、1992年に京都は東山の丘の上に建てられたヴィラ九条山は、多種多様な分野間の交流の手段であり、フランスと日本との異文化間対話を強化する使命を担っています。レジデントは京都だけに留まらず、関西地方、日本全国の芸術・学術・文化関係者と仕事上の関係を結ぶことを求められていて、ヴィラ九条山のスタッフ及び、日本に於けるフランスの文化機関、アンスティチュ・フランセ日本の6支部（福岡、京都、大阪、東京、横浜、ヴィラ九条山）、アリアンス・フランセーズ4支部（名古屋、札幌、仙台、徳島）、1研究機関（東京）のサポートを受けます。

ヴィラ九条山は、アンスティチュ・フランセ日本の支部の一つとして活動し、フランス外務・国際開発省管轄の文化機関です。アンスティチュ・フランセ パリと連携し、2014 年のリニューアルオープン以来、主要メセナのベタンクールシュエーラー財団の支援を受けています。

ベタンクールシュエーラー財団 - « 才能に翼を »

本財団を創設したのは一つの家族ですが、この家族は人間とその能力に信頼を置き、そのイニシアチブと高質な独創性と開放性をモットーとして、営利を目的とせず社会的責任を担うことを目的と定め、財団はこのエスプリが普遍的な善を実現することにつながると確信しています。

財団の活動は次の三つの主要分野にまたがっています：

生命諸科学、芸術、社会的分野

そのために財団は賞金を授与し、寄付金によって様々なプロジェクトを支援し、それぞれの必要に応じて高度に個別化された協力活動を提供しています。1980 年代末の創立以来、ベタンクールシュエーラー財団は、544 人を授賞支援し、様々なチーム、協会、機関、組織などによる 1000 以上のプロジェクトを支援してきました。

更に詳しい情報は以下のサイトをご覧ください。

www.fondationbs.org @[fondationbettencourtschueller](https://twitter.com/fondationbettencourtschueller)



問い合わせ先

ロリアヌ・ジャゴー

広報担当

lauriane.jagault@institutfrancais.jp

T +81 (0) 75 752 7173

オリヴィエ・フロモン

PR・マーケティング担当官 / 統括マネージャー

olivier.fromont@institutfrancais.jp

T. 03-5798-6008

ヴィラ九条山

〒607-8492 京都市

山科区日/岡夷谷町 17-22

アンスティチュ・フランセ

海外に向けたフランスの文化活動を推進する公的機関の一つで、多様な芸術分野、知的交流、文化と社会のイノベーション、語学交流を網羅しています。世界に向けて、フランス語や芸術作品、アーティスト、思想を発信しつつ、それらのより深い理解を目指しています。

当機関はフランス外務・国際開発省管轄と文化・通信省管轄のもと、ソフトパワー外交に積極的に貢献しています。各地域に根ざしたプロジェクトとプログラムは、五大大陸に存在する仏大使館の文化部、アンスティチュ・フランセ、アリアンス・フランセーズのネットワークを通して比類なく展開されています。